

「当院における血液透析患者送迎バスの取り組みと今後の課題」

(医) 財団はまゆう会 新王子病院

○杉昌宏 大谷麻岐 満行温視 荻堂幸男 渡辺美智子 桑原直美 渡辺千代子
箴島明彦 瀬川賀世子 惣明靖元 宮崎三枝子 田中孝夫

【目的】血液透析患者の送迎バスの取り組みから今後の課題を明確にする

【方法】当院の午前中血液透析患者の通院方法を調査し、送迎バス利用者の意見を聞きとり調査した

【結果】送迎バスの利用は 40%、自家用車での通院は 24%。送迎バス利用者の平均年齢は 73.8 歳、自家用車 67.2 歳。送迎バス利用者の中でバスの時間に間に合わないため透析時間を短縮した患者は 21.6%いた。患者の意見としては、車の運転ができなくなれば利用したいなどがあった。送迎バス添乗職員からは、歩行が不安定な患者に対する転倒など不安の声がある。

【考察】透析患者の高齢化により送迎バスの利用希望の増加が考えられる。タクシーなどの利用は経済的な負担もあり、送迎バス利用に関する取り決めおよび運行状況の見直しが必要と考える。

【結語】送迎バスのニーズは高い。今後の課題として、送迎バスの運行を充実させながらより安全な送迎のあり方を検討したい。